

学 校 評 価 報 告 書

平成27年度 江津市立桜江中学校

視点	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改 善 方 策
			A=取組により、成果が上がった、B=計画的に取組ができた、C=計画的に取組ができなかった、D=取組が不十分であった		達成状況	評価	考察	評価	
(1) 確かな学力(知)	①基礎基本の定着	○90分の家庭学習を促す授業と家庭学習の関連化 ・各教科で、授業に応じた課題を提供する。	A	各教科で課題を計画的に提供し家庭学習の充実を図ることで、90分の家庭学習ができ、成果がよく見られた。	自学ノートの取組を中心に、家庭学習は毎日行うものだという生徒の認識はある。家庭学習調査においても、どの月も全校の平均値ではほぼ90分という結果となった。ただ、生徒個々の取組の姿勢に差があり、授業でその日に提供される課題の量も異なるため、全員が毎日90分以上の家庭学習を達成できたという状況には至っていない。	B	自学ノートの取組は昨年度に比べて随分改善されて良くなっている。このことが家庭学習の習慣の定着につながっているように思われる。しかし、一部の生徒においては家庭学習の取組が不十分で、自学ノートの記入方法の指導や家庭での学習時間の確保に家庭と連携して見守る努力が求められる。全員毎日90分以上の学習時間達成に方策をあれこれ考えてほしい。	B	各学年で提出チェックやノート点検を行い、家庭学習の習慣は定着してきた。ただ、一部の生徒は家庭で学習することができず、家庭と連携しながら習慣化を図りたい。また、年度当初に示された各教科課題の自学ノートへの記入の仕方を再度生徒に確認し、記載内容の充実とともに、学習時間の伸長につなげていきたい。
			B	各教科で課題を計画的に提供し家庭学習の充実を図ることで、90分の家庭学習ができた。					
			C	各教科で課題を計画的に提供し家庭学習の充実を図ったが、60分の家庭学習しかできなかった。					
			D	各教科での課題提供による家庭学習の充実が計画的にできず、家庭学習の取組が不十分であった。					
	②予習の励行と主体的な学びの推進	○自主学習ノートと朝学習の内容の充実 ・自学ノートの内容の充実と取組の点検を行う。 ・朝学習で、丁寧に速く処理する学習スキルの向上に取り組む。	A	自学ノートと朝学習の内容の充実により、生徒の学習スキルが向上した。	「丁寧に速く」を目標に視写、計算の練習を朝学習の時間に計画どおり実施することができた。視写については速く書けるようになったという意識を持った生徒が多いが、計算については、基本的な計算が難しい生徒にとっては、充実した時間とは言えなかった。自学ノートについては、毎日の英語と曜日ごとの5教科の課題と自由課題の一日3ページが、身につけてきている。ほぼ100%の提出で、忘れた生徒には放課後の指導もあり、徹底してきている。	B	自学ノートの取組は全員が前向きでほぼ100%の提出であるということはずばらしい。さらに自分で課題を見つけ解決を図る姿勢を身につけさせたい。視写や計算の練習が朝学習の時間に計画的になされているのは大いに評価できる。数学が苦手な生徒が多いと言われる昨今、基本的な計算ができない生徒に何らかの配慮をお願いしたい。	B	朝学習の計算については、個人差を埋める個別指導が必要であると考えた。また、自学ノートについては、主体的な学びのため自分で考えて学習できるように指導していくことが大切なので、教科担任が課題を出すのではなく、自らが課題を見つけてノートに整理できるようにしたい。
			B	自学ノートと朝学習の内容の充実を計画的に実行できた。					
			C	自学ノートと朝学習の取組が計画的にできなかった。					
			D	自学ノートと朝学習の取組が不十分で、成果が見られなかった。					
	③図書館・読書活動の推進	○各教科におけるノート指導と予習の励行 ・次時の課題を明確にし、予習の充実を図る。 ・模範となる各教科のノートを掲示するなど、ノート整理の指導・評価を通して主体的な学びをサポートする。	A	予習を中心とした主体的な学びにより、ノートの内容が充実し、学力が向上した。	各教科でノートのまとめ方を指導した。定期テストごとにまとめ方の良いノートを校内掲示するだけでなく、一人一人にコメントしたり、良いノートの例をプリントにして配布することで、良いまとめ方を理解してできるようになった。また、授業の終末時、次時の予習内容や課題を提示することで、生徒が主体的に学び、見直しを持って授業に取り組めるようになってきた。一方、理科など教科によっては予習よりも習った内容の整理など復習に力を入れた。	B	ノート指導に関しては、ノートのまとめ方を指導したり、良いノートを提示したりさまざまな工夫がなされ着実に成果をあげている。予習については、毎日の家庭学習での取組が充分とは言えず、課題が残されている。なぜ予習が大切なのかを考えさせ、その重要性を認識させるように指導していただきたい。	B	各教科で、定期テストごとにノートのまとめ方を指導することは効果的であった。その結果、生徒も自分で工夫してわかりやすくノートを整理できるようになったと自己評価している。予習に関しては、1年生が少しずつではあるが、習慣がついているので、振り返りのマグネットシートを貼ることで、生徒が意識をして取り組めるようになった。今後も継続して指導していきたい。
			B	予習を中心とした主体的な学びにより、ノートの内容が充実した。					
			C	予習を中心とした主体的な学びが不十分であった。					
			D	予習を中心とした主体的な学びが不十分で、ノートの内容も充実しなかった。					
④「言語活動の充実」によるコミュニケーション力の育成	○図書館を利用した教育活動と家庭読書の推進 ・図書館利用者の増加と、家庭での読書の習慣化を図る。 ・生徒会の文化部活動を活用し、統計をもとに読書活動を推進する。	A	計画的に読書活動を推進することで、家読が十分に定着した。(家読20分以上)	全校生徒に読書ノートを持たせて、読書記録をとらせ、自分の読書傾向や読書量を振り返らせている。学級には学年にふさわしい本を置き、本と触れあう環境を整えている。また、文化部だよりで新刊を紹介をしたり、生徒の興味を引くような生徒による読書紹介などを行っている。しかし、家庭での読書時間については、不十分である。	C	全校生徒に読書ノートを持たせ、読書量を振り返らせたり、学級文庫を設置したりして環境づくりに努めている様子がよくうかがえる。図書館を利用する授業における問題点を検討してみる必要がある。学校司書の配置時間増加を強く望みます。また、家庭での読書時間確保が難しいようなので、補完するための取組の充実を望みます。	C	家庭での読書については、時間のとれる長期の休みに課題を出して、できるだけ本に触れる機会をつくるようにする。また、国語の授業でもできるだけ図書館を利用する工夫をしていきたい。他教科についても、計画に入れていきたい。	
		B	計画的に読書活動を推進することで、家読が習慣化した。(家読10～20分)						
		C	計画的に読書活動を推進することができなかった。(家読10分未満)						
		D	計画的に読書活動を推進することができず、家読も不十分である。						
④「言語活動の充実」によるコミュニケーション力の育成	○「伝え合う」活動によるコミュニケーション力の育成 ・「書くこと」「話すこと」など言語活動の充実を通じた表現力の向上と、話し合い活動を通じたコミュニケーション力の育成を図る。	A	表現力向上の取組により、生徒のコミュニケーション力が向上し、授業が活性化した。	校内授業研究会では、全職員で「伝え合う」活動を取り入れた授業研究を行った。ペア学習やグループ学習の場面を多く設定することや、発表する前に意見や考えをノートなどにまとめ、生徒同士がお互いに意見や考えを伝え合う活動ができた。また、グループの意見をリーダーがまとめて発表する流れも各教科で定着してきた。	B	「伝え合う」活動が活性化しつつある状況です。リーダーが発表する様子も見えて、いい状況で学校生活が送れているようです。	B	研究主題に沿った各教科での取組だけでなく、行事や講演会での取組も効果的であった。講演会などの最中にメモをとり、最後のところで感想や考えをまとめた。また、講演会では質疑応答の時間を設定することで、疑問に思ったことや感想を、自分の言葉として「話すこと」による表現力の向上を図った。今後も継続して行いたい。	
		B	表現力向上の取組により、生徒のコミュニケーション力の向上を図ることができた。						
		C	表現力向上の取組を継続的に行うことができなかった。						
		D	表現力向上の取組が継続的に行われず生徒のコミュニケーション力は向上しなかった。						

視点	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自己評価		学校関係者評価		改善方策
			A=取組により、成果が上がった、B=計画的に取組ができた、C=計画的に取組ができなかった、D=取組が不十分であった		達成状況	評価	考察	評価	
(2)豊かな心(徳)	①生徒指導の充実	○主体的に取り組む生徒会活動の推進 ・「自立・自律」的な生徒会活動の展開によって、学校に支持的な風土を根付かせる。	A	主体的な生徒会活動により、協力して活動や課題の解決に取り組むなど望ましい集団づくりができた。	各専門部とも協力して活動に取り組むことができた。肯定的評価が生徒アンケートでは91%、教員のアンケート67%であった。ただし、この結果は「当番活動ができた」というものであると考えられ、生徒の活動意欲に基づいた自主的な活動であったとは言いきれない。ただし、様々な工夫や取組を行った専門部もあり、次第に活発になりつつある。	B	この項目は評価が難しい。生徒の肯定的評価の91%は単に当番ができたものであると考えておられるが、様々な工夫や取組を行った専門部があり、次第に活発になっているとも考えておられる。リーダーの良しあしで活動も変わってくる。年度当初にリーダーを育成してほしい。	B	本部の生徒のみならず、リーダーを育てていくことが必要であり、各学年で指導していく。また、自主性を育むことも必要だが、「こうあるべき」という理想を教員が伝え、目標を持って取り組む生徒をまず育てていきたい。
			B	主体的な生徒会活動により、生徒は協力して活動や課題の解決に取り組んだ。					
			C	生徒会活動に主体的に取り組むことができなかった。					
			D	生徒会活動は消極的で、生徒の活動や課題の解決も不十分であった。					
	②人権・同和教育の推進	○生徒会人権宣言をもとにした人権意識の高揚 ・生徒会人権宣言を基に生活の見直しを行い、人権感覚の向上を目指す。	A	生徒会人権宣言をもとに計画的に啓発活動・評価等を推進し、人権感覚が高まった。	生徒会人権宣言を意識して生活できるよう、4月、11月に人権集会、6月に意識アンケート、12月の小中学校合同人権集会を実施した。特に「あいさつ」に力を入れて活動した。生徒アンケートでは、約90%が人権宣言を意識した生活を送ったと回答している。しかし、生徒の人権意識について教員の肯定的評価は63%であり、生徒の評価基準がやや甘いのが課題であると考えている。	B	生徒と教員のアンケート結果にギャップがある。教員が厳しくなるのは当たり前だけど、90%の生徒が人権宣言を意識した生活を送ったということをまず評価して、教員が甘いと思う点をどうしたら日常生活に根付くのかを考えて指導していただきたい。	B	生徒会人権宣言が生徒の日常に根付いていないことが課題である。生徒会活動ではもちろんのこと、授業等教員が主体となる場面で、ルールやマナーなど徹底し、思いやり等について教えていく必要がある。また、生徒会でも本部としての取組だけでなく、専門部、学級単位で話し合い活動を設けるなど、一人一人が考え判断する力をつける活動をしていく。
			B	生徒会人権宣言をもとに計画的に啓発活動・評価等を推進することができた。					
			C	生徒会人権宣言をもとにした計画的な啓発活動・評価等を推進することができなかった。					
			D	生徒会人権宣言等の取組が不十分で、人権感覚も向上しなかった。					
	③道徳教育と体験的活動の推進	○道徳教育の充実と体験活動による豊かな心の育成 ・道徳の時間の確保と年間指導計画に基づく指導を行う。 ・体験活動の充実により、豊かな心情の育成を図る。	A	年間指導計画に基づいた道徳教育・体験活動によって思いやりや郷土愛の心が育った。	道徳の授業については、各学年とも計画的に取り組んでいる。校内の研究授業にも道徳を入れ、全教員で道徳の授業研究をした。体験活動については、各学年総合的な学習の時間に地域に出かけ、地域のよさを学習してきた。道徳と体験活動を上手に結び付けて、豊かな心の育成に努める必要がある。	B	各学年とも道徳の授業を計画的に取り組み実施されたことは評価できる。また、福祉体験や人間関係作りなど体験や講演を実施したことで生徒の良い人間関係も育ちつつあるように思える。さらに効果的な取組で豊かな心の育成に努めていただきたい。	B	道徳については学年体が主となるが、研究授業を行う際、同じ資料で授業をしてみることや、担任間で情報交換をすることが必要だと考える。また、体験学習については、計画どおりに行ってきているので、より効果的な取組を工夫・検討する。
			B	年間指導計画に基づいて道徳教育・体験活動を行うことができた。					
			C	年間指導計画通りに道徳教育・体験活動を行うことができなかった。					
			D	年間指導計画通り道徳教育・体験活動を行うことができず、思いやりや郷土愛の心が育たなかった。					

視点	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自己評価		学校関係者評価		改善方策
			A=取組により、成果が上がった、B=計画的に取組ができた、C=計画的に取組ができなかった、D=取組が不十分であった		達成状況	評価	考察	評価	
(3) 健やかな体(体)	①特別支援教育の充実	○生徒一人一人の実態把握と支援ファイル、個別の指導計画によるきめ細かな指導の充実 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の指導計画に基づいた支援の充実を図る。	A	具体的な指導計画の作成及び支援の充実と教員間の連携で、十分な成果が見られた。	今年度は、TT指導用のファイルを新たに作成し、T2教員、特別支援教育支援員、学力向上支援員用の3つのファイルで実態把握を行ってきた。普通学級に在籍する支援が必要であるとしてよく名前の挙がる生徒に対しては、板書の写し方、話の聴き方などを支援することができた。特別支援学級の生徒に対してもファイルに記入があり、授業の改善点について様々な指摘を受けることができた。	B	昨年度の反省を踏まえ、TT指導用のファイルとして新たにT2教員、特別支援教育支援員、学力向上支援員用の3つのファイルを作成され、生徒に対する細やかな指導をされたことは評価できる。次年度もこれらを活用して効果的な指導を期待する。	B	実態把握したことを、職員会等でより密に情報発信していく。支援の必要な生徒1人1人について実態に応じたチェックポイントを設けて評価していく。特別支援学級の個別の指導計画について、学期毎の評価を行う。
			B	具体的な指導計画の作成及び支援を充実することができた。					
			C	具体的な指導計画の作成及び支援を計画的にできなかった。					
			D	具体的な指導計画の作成及び支援が不十分であった。					
	②勤労意欲の向上	○清掃活動や奉仕作業の充実 ・無言清掃や奉仕作業に進んで取り組む。	A	無言清掃や奉仕活動に進んで取り組み、勤労意欲が向上した。	班長会による引き継ぎ会や毎日の反省会を通して、翌日の清掃課題がはっきり提示できるようになった。清掃の取組については、良好又は概ね良好と答えた生徒は79.3%、教員による評価も同じ傾向であった。ただ、昨年度から取り組んでいる無言清掃は徹底が甘く、また、清掃場所によっては担当人数と合っていないところが見られた。来年度は清掃区域の見直しをする必要がある。	B	班長会や毎日の反省会を通して清掃への取組は良好であると思われ、昨年度の生徒の評価90%から減少したのは残念である。無言清掃の徹底や清掃区域の見直しにより、生徒の自主的な活動を期待する。	B	昼休みから清掃への移動、取組が遅いので、広報部と連携し清掃への移行をスムーズにすすめるよう工夫する。また、環境奉仕部の活動を活性化し、無言清掃の励行に努め、反省会の充実を図る。
			B	無言清掃や奉仕活動に進んで取り組んだ。					
			C	無言清掃や奉仕活動に進んで取り組むことができなかった。					
			D	清掃や奉仕活動の取組が、不十分であった。					
	③体力づくりの習慣化と体力の向上	○全校トレーニング等の充実による体力の向上 ・体力向上計画に基づき、毎週全校体制で全校トレーニングを行い、体力の向上と運動の習慣化を図る。	A	全校トレーニングにより、体力づくりに計画的に取り組むことができた。	男女に分けたシンプルなタイムトライアルにした。競い合うことで体力の向上が見られたが、2学期後半、マンネリ化のため、意欲に欠ける生徒が見られた。設定タイム等具体的な数字を示す必要がある。集合時、保健体育部員がきちんと並ばせることができるように指導しなければならない。	B	今年度は男女に分けてタイムを競い合うなど、取組に努力の跡がうかがえる。今後も続けて取り組んでいただきたい。	B	引き続き記録を掲示することで意欲付けを行う。また、集合時に、きちんと注意しながら集団としてきちんと並ぶことができるように保体部員、生徒会本部生徒を指導する。
			B	全校トレーニングにより、体力づくりに計画的に取り組むことができた。					
			C	全校トレーニングでは、体力づくりに計画的に取り組むことができなかった。					
			D	全校トレーニングでは、体力づくりが不十分であった。					
	④学校保健の推進	○基本的な生活習慣形成に向けた各種健康教育の実施 ・生徒会による啓発活動や生活リズム向上の取組を通し、望ましい生活習慣を定着させる。 ・PTAと連携を図り、健全な子供育成に取り組む。	A	保健啓発活動や、生活習慣調査により、望ましい生活習慣が身についた。	生活リズム定着のため、身体測定の後半の時間で、睡眠時間の重要性などを指導した。保護者へも連携がとれる様に、毎月保健だよりを発行した。生徒会での生活リズム向上の取組は、頑張っていると思うが、もう少し、事前の啓発活動に力を入れていく必要がある。	B	保護者に対して毎月保健だよりを発行していることはとても評価できる。保護者の協力はどうしても必要なため、今後もより一層連携した取組をしてほしい。	B	保護者に対しては引き続き保健便りを毎月配布し啓発していく。生徒会活動に関してはアンケートの集計などから生徒自らが課題や改善策を考えさせ、主体的な啓発活動にする。
			B	保健啓発活動や、生活習慣調査が計画的にできた。					
			C	保健啓発活動や、生活習慣調査が計画的にできなかった。					
			D	保健啓発活動や、生活習慣調査が不十分であった。					
	⑤安全対応能力の向上	○危機回避能力の取得を目的とする各種防災教室の実施 ・防災学習を計画的に実施し、危機回避能力の向上に努める。	A	各種防災教室を計画的に実施し、危機回避能力が向上した。	今年度は火災避難訓練、心肺蘇生法講習、AED活用講習を実施した。生徒の取組の様子も良好であった。今後も天候等の様子を考慮しながら啓発的訓練・講習を実施する予定である。	B	災害は想定外のことも起こりうるため、さらなる日頃の防災に対する意識の向上を望みます。	B	防災訓練の種類と回数を増やし、より実践的な訓練形式にするなどの工夫を行う。また、評価を行うことで、安全意識の向上を図る。
			B	各種防災教室を計画的に実施し、安全意識が向上した。					
			C	各種防災教室を計画的に実施できなかった。					
			D	各種防災教室を計画的に実施できず、安全意識が向上しなかった。					

視 点	今年度重点目標	指 標	評 価 基 準		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改 善 策
			A=取組により、成果が上がった、B=計画的に取組ができた、C=計画的に取組ができなかった、D=取組が不十分であった		達成状況	評価	考察	評価	
④ 地域との連携(社)	① ふるさと教育の推進	○地域講師の積極的な活用とふるさと教育の推進 ・「総合的な学習の時間」の内容の充実と系統的な実施を図り、ふるさとに誇りを持つ生徒の育成を図る。	A	地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用するとともに、ふるさと教育を系統的に行い、教育効果が上がった。	昨年度から、各学年毎に総合的な学習の時間の計画も系統的に組み立てられており、生徒・教員両面で見通しを持って取り組めるようになった。地域講師として、様々な方にお世話になっており、継続して取り組んでいるため、学校との共通認識のもと、効果的な学習の場を生徒に提供することができた。「地域について知り、地域に誇りを感じた」というアンケートの項目でも、生徒の87%以上が肯定的な評価をしている。	A	今年度もふるさとキャリア教育等を積極的に展開し、子どもたちに地域の「ひと」、「もの」、「こと」について総合的に学習し、生まれ育ったふるさとに対する誇りと素晴らしさ、また、新たな発見にもつながったのではないと思う。今後も市内の事業所についても理解を深めさせるなど連携交流先を拡大しつつ継続的に実施し、さらなる地域との連携強化に努められんことを期待したい。学校が核になり、特に地元商工業・水産農業関係者はじめ、各種団体企業、地元有志とのネットワークも模索しつつ、地域の活性化をも視野に入れた取組になることを期待したい。	A	総合的な学習を中心に、ふるさと教育の取組が成果となっているので、これからも継続して指導を行いたい。ただし、課題となる点を明確にし、担当する次の学年教員に引継ぐことで、より充実した取組となるよう常に見直しを図りたい。また、工業団地の事業所の見学なども計画に取り入れたい。
			B	地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用するとともに、ふるさと教育を系統的に行うことができた。					
			C	地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用したが、ふるさと教育を系統的に行うことができなかった。					
			D	地域の「ひと・もの・こと」の積極的な活用ができず、ふるさと教育の内容が充実しなかった。					
	② 積極的な情報発信と保護者・地域との連携	○各種通信の定期的発行とHPの定期的更新 ・学級、学校から定期的に活動を知らせるとともに、生徒・保護者へ適切な情報提供を行う。	A	定期的なたよりの発行とHPの更新を行い、学級・学校の様子や、啓発的内容を情報発信した。	「校長室の窓」、学校だより「いわき」、保健だよりを定期的に発行した。また、学年・学級だよりも適宜発行した。ホームページの更新も定期的に行った。記事内容をできるだけタイムリーで啓発的な内容のものにするように努めた。肯定的評価について、保護者は90%、地域は96%で、良好であるといえる。	A	紙媒体である「いわき」や「校長室の窓」などで学校方針や日常の学校活動等について知ることでもでき、また、校長はじめ先生方の学校運営や子どもたちへの思いも伝わってきている。一方、HPの積極的な更新等、学校での出来事や行事案内などをタイムリーかつ効果的に情報発信できる手段として、情報機器等の有効活用を検討していくことも必要ではないかと思う。保護者や地域の人達に対し、タイムリーかつ有益な情報発信がより協力者を得る有効な手段であると考えられる。	B	記事内容のますますの充実に向けていくとともに、たよりが必ず家庭に届くように引き続き生徒への指導に努める。また、学年・学級だよりの発行回数を増やしていきたい。
			B	定期的なたよりの発行とHPの更新を行い、学級・学校の様子を伝えることができた。					
			C	定期的なたよりの発行とHPの更新を行うことができなかった。					
			D	定期的なたよりの発行とHPの更新が行われず、学級・学校の様子が充分情報発信されなかった。					
	③ 保小中高の連携	○学校種間の連携推進 ・保小中連絡会及び中高連絡会の実施、「桜江小中連携の会」の推進を通して、学校間交流・情報交換会、及び授業交流を積極的に行う。	A	保小中高の計画的な連携と交流の充実により、その成果がよく見られた。	小中・中高の連携については、連絡会や合同職員会の機会を通して、情報交換を効果的に行うことができた。特に小中については、各部会毎に連携の在り方や共通して取り組める事業について検討した。「さくらえっ子集会」のように形となって残る成果もあったが、情報交換で終始し、具体的な取組までつなげられなかった現状もある。保育園との連携も、昨年度と同様に総合的な学習での福祉体験、職場体験などの機会を利用し、交流を図ることができた。	B	小中、中高の連携については今後も計画的に連絡会や合同職員会を行っていただき、継続をお願いします。今後は各部会毎に連携を強化していただき、具体的な取組まで繋げられるように期待する。	B	残った3学期に、全ての部会で具体的な取組ということは難しいが、小学校への出前授業や新入生への説明会、春休みの課題提供等予定されている内容は、小学校と連携しながら進めていきたい。また、小中合同の職員会で、成果と課題を再検討し、次年度のより実りのある連携につなげていきたい。
			B	保小中高の計画的な連携と交流の推進ができた。					
			C	保小中高の連携と交流の推進が計画的にできなかった。					
			D	保小中高の連携と交流の推進が不十分であった。					
④ キャリア教育の推進	○ふるさと教育と関連付けた取組の推進及び、進んで集団、地域、社会に貢献できる生徒の育成 ・3年間を見通したキャリア教育をふるさと教育と関連付け、集団、地域、社会に貢献できる生徒の育成を図る。	A	3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、地域・社会等に進んで貢献できた。	各学年、計画的に取り組むことができた。内向的な生徒が多い本校にとっては、発達段階に応じて地域・社会に貢献していこうとする意欲を持たせる指導を考えていく必要がある。地元の6企業によるワールドカフェは事業所の協力もあり、成功した。市のキャリア教育フォーラムでの発表は高い評価を得た。	B	地域貢献・社会貢献のためには、今後も必要な取組だと思うので、継続をお願いします。地元の企業を知る良い機会だと思いますので、継続をお願いします。	B	各学年、具体的な課題や目標を自分で設定させ、取り組めるように指導内容を工夫していく。また、自らが課題を設定し、追究できるように地域のひと・もの・ことを十分に活用する工夫をしていきたい。	
		B	3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、地域・社会等に進んで貢献しようとする意欲が高まった。						
		C	3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施できなかった。						
		D	キャリア教育が計画的に実施できず、地域・社会等に進んで貢献しようとする意欲が高まらなかった。						